

国立市コミュニティバス「くにっこ」概要

1. コミュニティバス運行開始までの経過

[平成 12 年度]

- ・ 8 月に「国立市コミュニティバス導入庁内検討委員会」を立ち上げ、市民にとっての公共交通の現状や、導入することについての問題点、コミュニティバスルートへの検討、バス停の設置、バス車両などについて調査・検討を開始。
- ・ 12 月には市民に対し公共交通の利用状況やバス交通に対する意向のアンケート調査を実施。

[平成 13 年度]

- ・ 平成 13 年 6 月に庁内検討委員会は「コミュニティバス導入に関する報告書」を作成。これを受けて、専門家や市議会議員、市民、バス会社の方も参加した「国立市コミュニティバス協議会」を設置し、コミュニティバスの導入に向けたより具体的な内容について検討開始。
- ・ 協議会で検討した結果、「国立市コミュニティバス導入検討報告書」を作成。
- ・ 交通不便地域を、①北二丁目・三丁目、西一丁目の一部、②青柳地区（立川市境）、③谷保（国立府中インター入口及び国立三中付近）に設定。また、検討課題として、府中よりの東地域とした。
- ・ 短期的取組を北・西地域とし、中長期的取組を青柳地域及び谷保地域とする。
- ・ 北・西地域の具体的ルート及び運行形態の設定

[平成 14 年度]

- ・ コミュニティバスの運行計画について
運行車両：車幅の小さい全長 7 m クラスのバリアフリー対応車両
料 金：150 円案から 170 円に変更
- ・ 「国立市コミュニティバス導入検討報告書」に基づき、平成 15 年 3 月 8 日に北ルート、北西中ルートを運行開始。

[平成 16 年度]

- ・ 平成 16 年度 10 月から南部地域での新路線についての市民説明会開始。
- ・ 青柳、四軒在家地域の 4 自治会から 1,288 名分の「南部地域への一日も早いコミュニティバスの運行を求める要望書」が提出される。

[平成 17 年度]

- ・ 庁内検討委員会を立ち上げ 5 月末から 3 月まで 12 回開催。
南部地域への新規路線導入について、計画を円滑に進めるため、庁内の関係部署により調査研究を行い、調査・研究結果を「コミュニティバス新規路線導入事業化調査報告書」の中に記載した。

[平成 18 年度]

- ・平成 18 年 4 月 18 日青柳・泉ルート of 運行を開始。

2. 現 状

(1) ルートについて

①北ルート、北西中ルート

- ・利用者は徐々に増加し、1 日の平均乗車人数は、北及び北西中ルートにおいては当初 400 人台であったが、平成 19 年度には 672 人となり、現在まではほぼ横ばい状態である。
- ・北地域の市民から要望の多かった北ルートの国立駅発について 1 便を増便し、最終便を午後 8 時とした。

a) 北ルート

- ・ル ー ト：国立駅北口から⇄北第一公園西、往復で 3.2km、停留所 14 箇所
- ・所要時間：往復で 14 分 7 時から 9 時と 18 時から 20 時の時間帯は 15 分間隔
- ・運行本数：1 日 17 本（平成 18 年 4 月 18 日から夜の 1 便を追加）

b) 北西中ルート

- ・ル ー ト：国立駅北口を出発～国立駅南口～国立市役所、往復 13.8km、停留所 37 箇所
- ・所要時間：往復で約 80 分 9 時から 18 時時間帯は 47 分間隔
- ・運行本数：1 日 11 本

②青柳・泉ルート

【導入の効果（目的）】

- ・南部地域の青柳、石田、四軒在家及び泉地域の交通不便地域の解消
- ・高齢者、しょうがいしゃ等の移動手段の確保
- ・矢川駅、商店街当へアクセスにより通勤通学及び買い物等の利便性の向上
- ・市役所、芸小ホール、総合体育館、保健センター、休日診療センター、こども家庭支援センター、南市民プラザ及び郷土文化館等の公共施設へアクセスし、多様な市民ニーズに対応する。

c-1) 青柳ルート

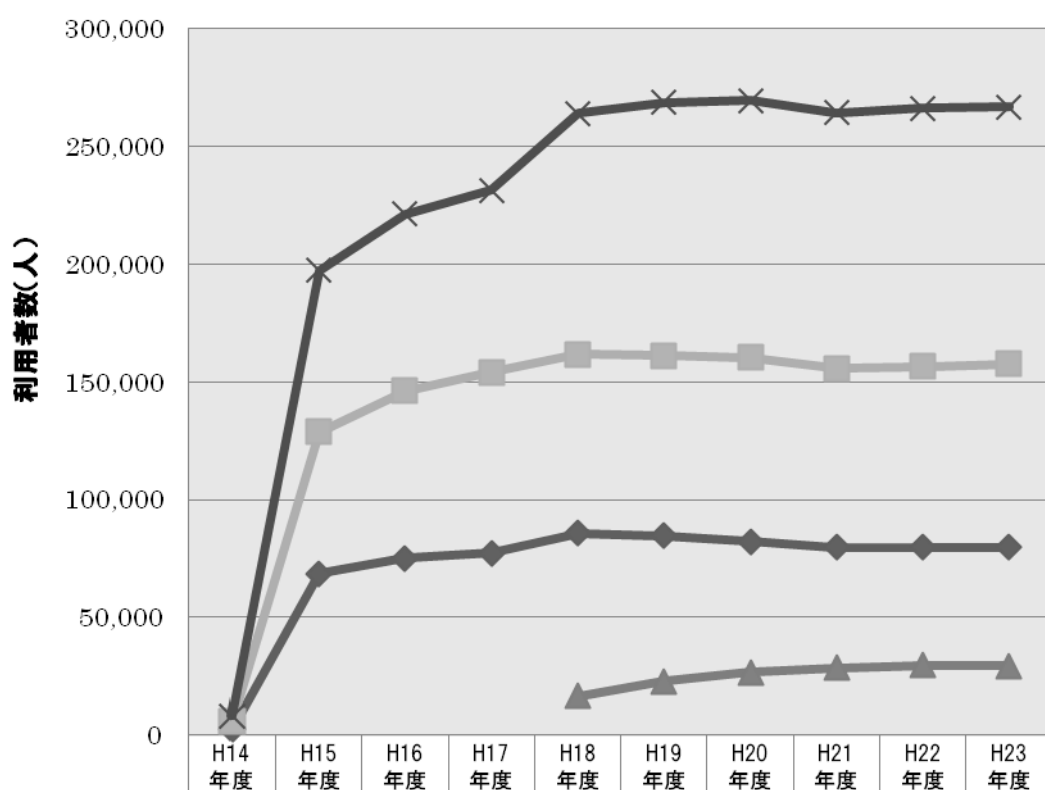
- ・ル ー ト：国立市役所～矢川駅南～青柳三丁目～矢川駅～国立市役所
- ・距 離：3.90 キロメートル～5.65 キロメートル、停留所 21 箇所
- ・所要時間：7 時から 9 時と 18 時から 20 時の時間帯は約 50 分間隔（矢川駅発着）青柳ルートの往復時間 20 分、9 時から 16 時の時間帯は約 80 分間隔（青柳・泉コース交互運行）青柳ルートの往復時間 35 分

- ・運行本数：1日13本

c-2) 泉ルート

- ・ル ー ト：国立市役所～矢川駅南～国立泉団地～泉3丁目～矢川駅～国立市役所
- ・距 離：4.75キロメートル～6.95キロメートル、停留所21箇所
- ・所要時間：7時から9時と18時から20時の時間帯は約50分間隔（矢川駅発着）泉ルートの往復時間25分、9時から16時の時間帯は約80分間隔（青柳・泉コース交互運行）泉ルートの往復時間37分
- ・運行本数：1日12本

「くにっこ」利用者数の変化



(2) 運賃など

- ・大人 170 円、小人 90 円 回数券：170 円券（11 枚 1700 円（155 円／枚））、90 円券（12 枚と 10 円券 2 枚、1000 円（83 円／枚））（平成 24 年 6 月実施）
- ・シルバーパス使用可、しょうがいしゃ割引あり
- ・有料車内広告有り

(3) 経費（H23 年度実績）

- ・経費総額約 6,070 万円、運賃収入約 2,320 万円（シルバーパス補助額約 298 万円含む）、市は補助金約 3,750 万円を負担している。

(4) 運行車両

- ・J23 号車：全幅 1.99m 全長 5.77m 全高 2.83m プジョーのシャシーに日野がボディ架装、定員 20 人（乗務員含む）走行距離約 38 万 km（同時期に導入した J22 号車は H24.1 に J34 号車の導入にあわせて廃車）
- ・J29 号車：全幅 2.08m 全長 6.99m 全高 3.10m、シャシー・ボディともに日野自動車、定員 31 人（乗務員含む）走行距離約 24 万 km
- ・J34 号車：H24.1 新車導入。全幅 2.08m 全長 6.29m 全高 3.10m シャシー・ボディともに日野自動車、定員 25 人（乗務員含む）

※利用実態を踏まえ、平成 24 年 2 月 6 日から青柳・泉ルートで使用していた J29 号車（乗客 30 人乗り）を北・北西中ルートに投入し、J23 号車、J34 号車を隔日で青柳・泉ルート、北・北西中ルートで使用している。

3. その他

- ・北ルート、北西中ルートの運行について、コミュニティバスの運行経路が立川バスの営業区域内であり国立市の交通事情等をよく熟知していること、バス停等の施設物が共有できることにより交通環境整備の設置費用が少なくすむことなどから、立川バス株式会社に委託している。
- ・青柳・泉ルートの運行に関しては、プロポーザル方式により、立川バスを選定し、運行委託を行った。

コ ミ バ ス 比 較 表

(H24. 3. 21 現在)

項 目	J 2 3	J 2 9	J 3 4	備 考
運 行 開始日	平成 1 5 年 3 月 8 日	平成 1 8 年 4 月 1 8 日	平成 2 4 年 1 月 2 0 日	
購 入 価 格	19, 409, 354 円 (立川バスが購入し、10 年返済)	18, 215, 070 円 (立川バスが購入し、国立市が運営 補助金の中で支出: 都補助金 9, 107 千円)	15, 119, 762 円 (地域活性化交付金「きめ細かな交 付金」活用)	J 34 購入時の下取り 価格 (J 22) 3 0 0 万 円 (消費税含まず)
所有者	立川バス (株)	立川バス (株)	国立市	
車 種	日野自動車ポンチョ (プジョー製)	日野自動車ポンチョ (ロング)	日野自動車ポンチョ (ショート)	
寸 法	全長: 5. 77m、全幅: 1. 99m、 全高: 2. 81m	全長: 6. 99m、全幅: 2. 08m、 全高: 3. 1m	全長: 6. 29m、全幅: 2. 08m、 全高: 3. 1m	
定 員	乗車定員 20 人 (乗客 19 人)	乗車定員 31 人 (乗客 30 人)	乗車定員 25 人 (乗客 24 人)	
車いす 関 係	スロープ板、車いす 1 台	スロープ板、車いす 1 台	スロープ板、車いす 1 台	